

0345

決裁指定
閣

大臣 次官 高級 副官	參事官 副官	主務 課長 主務 課員	局長 局長	事務局長		大正十五年十二月廿九日	受領 番號	件名 練習飛行機準制式制定、件			
				局長	局長				事務局長		大正十五年三月八日
									事務局長		
主務 課長		局長	事務局長		大正十五年三月八日						
副官		局長	事務局長		大正十五年三月八日						
主務 課員		局長	事務局長		大正十五年三月八日						
副官		局長	事務局長		大正十五年三月八日						

連帶
課名

軍
統
海

陸軍

決行後回
覽課名

統
共

陸軍部 通牒

副官ヨリ陸軍航空部本部長へ

大正十二年十二月十四日航部奉器第四四六號ヲ以テ
上申ニ係ル首題ノ件 已式一型練習機ヲ以テ準
制式ト制定セラレ候條承知相成度候也

副官ヨリ教育總監部本部長、參謀本部總監務部長

陸軍兵器本廠長、陸軍造兵廠總監務部長

近衛第三、第十六、第十八師團參謀長

朝鮮軍參謀長へ通牒

別冊説明書ノ通已式一型練習機ヲ準制式トシテ

三月十三日

陸軍航空學校操縦學生初歩練習機ニ制定セ
ラレ候條承知相成度候也

陸軍航空部 第八三六號

陸軍



0348

已式一型練習機説明書

大正十二年十二月二十日
陸軍省

已式一型練習機説明書

第一 構造

一本機ハ現時併國陸軍ニ於テ初歩練習機トシテ使用シアルダン
 リ才式十四型ノ改造複座機ニシテローソンハ馬力發動機一基
 及牽引式螺旋機ヲ装着ス其一般ノ形状ハ附圖第一乃至第三ノ
 如ク機体ノ主要ナル構造左ノ如シ

(1) 胴体

断面矩形ヲナセル單胴体ニシテテーパーヲ卷ケル四個ノ縦梁
 ハ其骨幹ヲ形成シ後端ニハ管狀ノ垂直桿アリテ方向舵ノ装
 着ニ供セララル

(2) 主翼

中央上下翼及左右上下翼各一ヨリ成リ左右上下翼ハ其幅同
 一ニシテ一米七〇〇ナリ

左右上下翼ニハ各補助翼ヲ具備シ、E式ニ相似ス翼ノ前桁及後桁ハ共ニ中空ニシテ、テーパーヲ纏卷シ前桁前縁間ノ上面ハ合板ヲ以テ被覆シアリ

(ハ) 尾翼

水平安定板ハ前後両桁上ニアル各二個ノ螺桿ニヨリテ胴体尾部ニ装着セラレ其螺桿ノ調整ニヨリ安定板ノ衝角ヲ變更シ得

垂直安定板ハ其前端水平安定板ノ前桁上ニ固定セラレ後端ハ胴体尾部垂直桿上ニ装着セラレ

(ニ) 操縦装置

二重操縦装置ニシテ方向舵ハ水平ニ移動スル踏桿ニヨリ脚ヲ以テ又昇降舵及補助翼ハ操縦桿ニヨリ手ヲ以テ操作ス而シテ之等ハ教官席ノ踏桿及操縦桿ニ直結セラレ前方座席ハ

學生席後方座席ハ教官席ニシテ兩座席間ノ操縦裝置ヲ連結
 スル桿ハ前後ニ部ヨリ成リ此二個ノ鋼管ノ一ハ他ノモ、ノ
 中ニ挿入セラル兩者ノ連結ハ鋼管内ニアル小匡内發條ノ力
 ニヨリ凸起スル小筍、嵌入ニヨル而シテ教官ハ該發條ニ連
 繫スルボリテン索ノ牽引ニヨリ筍ノ凸起ヲ防止シ以テ必要
 ニ應シ學生ノ操作ヲ不能ナラシムルヲ得

(ホ) 着陸裝置

脚ハ左右ニ部ヨリ成リ同一形狀ヲナス

各脚ハ前橈及二個ノ車輪ヲ有ス車軸ハ緩衝護謨紐ニヨリ前
 橈ニ縛着セラレ前橈上ニ頂點ヲ有スル三角形金具ニヨリ其
 位置ヲ保ツ
 尾橈ハ胴体ノ後部ニ於テ尾部垂直桿下端ニ設ケラレアル鐵
 又ニ螺桿ニヨリ装着セラレ緩衝護謨紐ニヨリ其上部ヲ縛着

セラル

(2) 給油装置

揮發油槽ハ發動機ノ後上方ニアリテ重力給油式ナリ
滑油槽ハ發動機ノ直後ニ在リ

第三性能

本機ノ一般的性能左ノ如シ

全幅	一〇米二六〇
全長	七米二五〇
機高	三米〇〇〇
主翼全面積	三四平方米五〇〇
席数	二
自重	五五五吉瓦
搭載量	一七〇吉瓦
揮發油量	八〇吉瓦

滑油槽容量

一九立

上昇速度

五〇〇米

四分三〇秒

一〇〇〇米

八分三〇秒

一五〇〇米

一四分三〇秒

二〇〇〇米

一九分五二秒

二五〇〇米

二八分一〇秒

三〇〇〇米

三七分〇八秒

水平速度

最大

一一八吉米

最小

八六吉米

安全係数

七

航続時間

二時間三十分

第三 本機選定理由

一本機ハ大正十二年度ニ於テ若干機併國ヨリ購入シ試験研究セ

ル結果左ノ特徴アルヲ認ム

一、地上及空中ニ於ケル操縦他機ニ比シ頗ル容易ニシテ他機ニ屢々見ルカ如キ發動機ノ曲轉ニ起因スル偏向殆トナク又空中ニ於テ身心ヲ勞スルコト少シ着陸モ亦他機ニ比シ容易ニシテ着陸滑走中方向ヲ偏向スルカ如キコト殆ト稀ナリ
 二、空中ニ於ケル安定頗ル良好ニシテ殊更ニ之ヲ錐操状態トナサントスルモ直ニ安定ノ姿勢ニ復歸ス

三、上下左右翼ハ全ク同形ニシテ互ニ交換使用シ得ヘク支柱及之ト附属スル金具モ亦取付方向ノ變更ニヨリ彼此流用シ得
 四、座席ト踏桿トノ距離ハ操縦者ノ体格ニ應シ伸縮シ得

五、從來初步練習機トシテハ甲式一型練習機ヲ使用シ来リタルモ初步者ニハ鋭敏ニ過キ殊ニ空中ニ於ケル教育困難ナルヲ以テ習得ニ比較的多クノ時日ヲ要シ且離着陸時ニ於ケル方向維持

ノ操作困難ナル爲器材ヲ損耗スルコト多ク危険モ亦比較的多シ現ニ佛國ニ於テモ其影ヲ認メサル狀況ニアリ

三本機体及發動機ハ本邦民間工場ニ於テ既ニ製作確ヲ獲得シ發動機ノ製作ハ完全ニ成功シ機体モ近ク製作ニ着手スルノ狀況ニアルヲ以テ將來ニ於ケル補充等容易ナリ

以上ノ理由ニヨリ本機ハ初歩練習機トシテ適當ナルモノト認メ
 選定スル所以ナリ



0356

第三圖



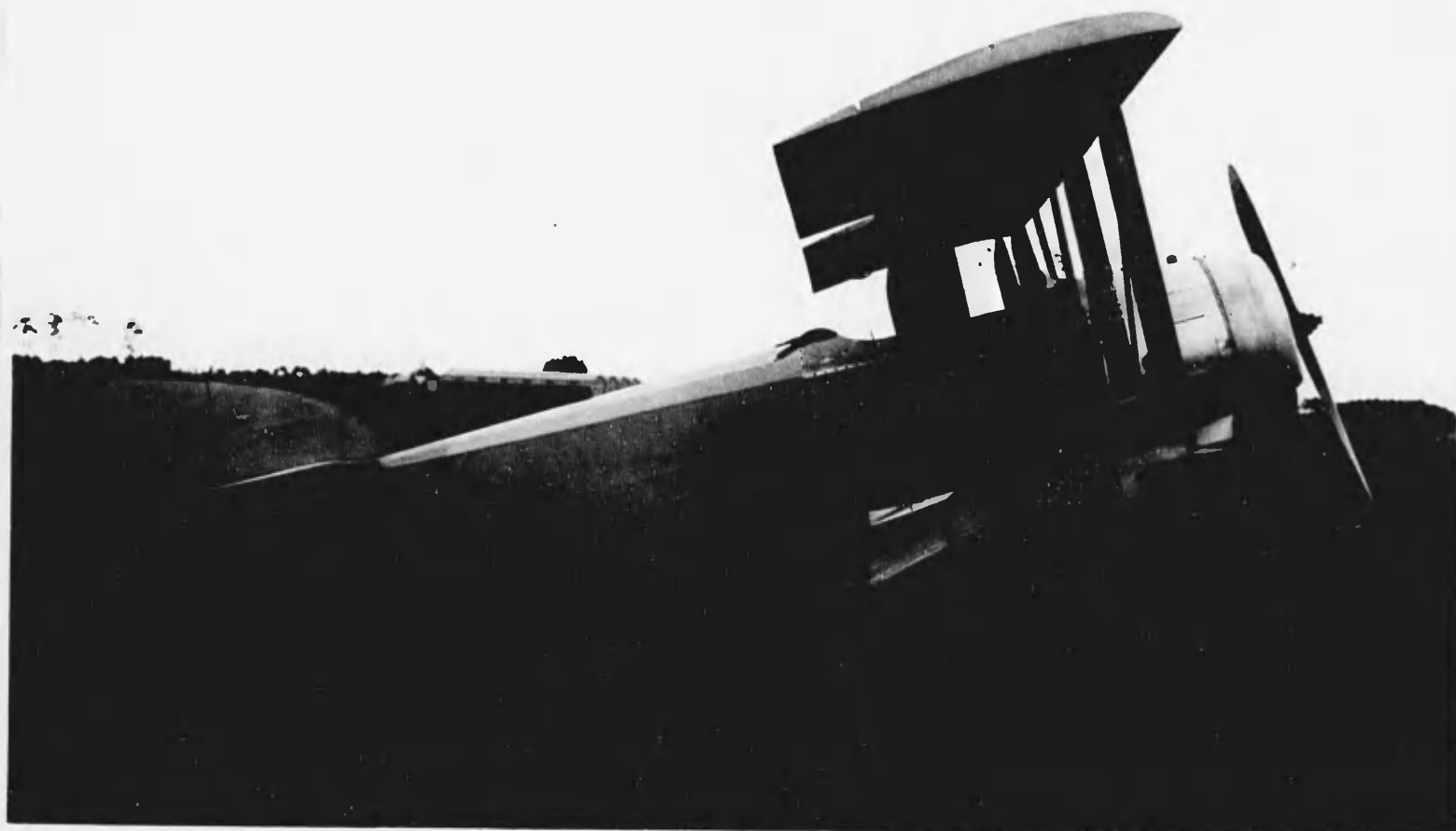
0357

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

第三圖



0358

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>



軍部
領
部
令
第
一
〇
七
号
大
正
十
二
年
十
二
月
十
四
日

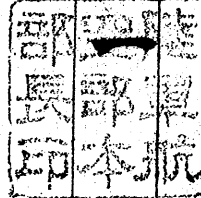
航部發器第四四六號

飛行機假制式審議相成度件上申

大正拾貳年十二月拾四日

陸軍航空部本部長安滿欽

陸軍大臣男爵田中義一殿



己式一型練習機ヲ假制式兵器トシテ陸軍航空學校
操縦學生初步練習機ニ採用致度候條審議相成
度説明並理由書相添及上申候也

陸軍

0980

已式一型練習機説明書並理由書

大正十二年十月十日
陸軍航空部

已式一型練習機説用書

第一 構造

一 本機ハ現時併國陸軍ニ於テ初歩練習機トシテ使用シアルアン
 リ才式十四型ノ改造複座機ニシテ、ローソンハ〇馬力發動機一基
 及牽引式螺旋機ヲ装着ス其一般ノ形状ハ附圖第一乃至第三ノ
 如ク機体ノ主要ナル構造左ノ如シ

(1) 胴体

断面矩形ヲナセル單胴体ニシテ、テーパーヲ卷ケル四個ノ縦梁
 ハ其骨幹ヲ形成シ後端ニハ管狀ノ垂直桿アリテ方向舵ノ装
 着ニ供セララル

(2) 主翼

中央上下翼及左右上下翼各一ヨリ成リ左右上下翼ハ其幅同
 一ニシテ一米七〇センチナリ

左右上下翼ニハ各補助翼ヲ具備シ、モ式ニ相似ス翼ノ前桁及後桁ハ共ニ中空ニシテ、テーパーヲ纏卷シ前桁前縁間ノ上面ハ合板ヲ以テ被覆シアリ

(八) 尾翼

水平安定板ハ前後兩桁上ニアル各二個ノ螺桿ニヨリテ胴体尾部ニ装着セラレ、其螺桿ノ調整ニヨリ安定板ノ衝角ヲ變更シ得

無直安定板ハ其前端水平安定板ノ前桁上ニ固定セラレ、後端ハ胴体尾部垂直桿上ニ装着セラレ

(二) 操縦装置

二重操縦装置ニシテ方向舵ハ水平ニ移動スル踏桿ニヨリ脚ヲ以テ又昇降舵及補助翼ハ操縦桿ニヨリ手ヲ以テ操作ス而シテ之等ハ教官席ノ踏桿及操縦桿ニ直結セラルル前方座席ハ

學生席後方座席ハ教官席ニシテ兩座席間ノ操縱裝置ヲ連結スル桿ハ前後ニ部ヨリ成リ此ニ個ノ鋼管ノ一ハ他ノモノ中ニ挿入セラレ兩者ノ連結ハ鋼管内ニアル小匡内發條ノ力ニヨリ凸起スル小筭ノ嵌入ニヨル而シテ教官ハ該發條ニ連繫スルボリデン索ノ牽引ニヨリ筭ノ凸起ヲ防止シ以テ必要ニ應シ學生ノ操作ヲ不能ナラシムルヲ得

(ホ) 着陸裝置

脚ハ左右ニ部ヨリ成リ同一形狀ヲナス

各脚ハ前橈及ニ個ノ車輪ヲ有ス車軸ハ緩衝護謨紐ニヨリ前橈ニ縛着セラレ前橈上ニ頂點ヲ有スル三角形金具ニヨリ其位置ヲ保ツ

尾橈ハ胴体ノ後部ニ於テ尾部垂直桿下端ニ設ケラレアル鐵又ニ螺桿ニヨリ装着セラレ緩衝護謨紐ニヨリ其上部ヲ縛着

セラル

(N) 給油装置

揮發油槽ハ發動機ノ後上方ニアリテ重力給油式ナリ
滑油槽ハ發動機ノ直後ニ在リ

第二性能

本機ノ一般的性能左ノ如シ

全幅	一〇米二六〇
全長	七米二五〇
機高	三米〇〇〇
主翼全面積	三四平方米五〇〇
席数	二
自重	五五五吉瓦
搭載量	一七〇吉瓦
揮發油量	八〇吉瓦

滑油槽容量

一九五

五〇〇米

四分三〇秒

一〇〇〇米

八分三〇秒

一五〇〇米

四分三〇秒

二〇〇〇米

一分五二秒

二五〇〇米

二分一〇秒

三〇〇〇米

三分八秒

水平速度

最大

一分一八吉米

最小

八六吉米

安全係数

七

航續時間

二時間三十分

第三 本機選定ノ理由

一本機 八六正十二年度ニ於テ若干機佛國ヨリ購入シ試験研究セ

ル結果左ノ特徴アルヲ認ム

1. 地上及空中ニ於ケル操縦他機ニ比シ頗ル容易ニシテ他機ニ屢々見ルカ如キ發動機ノ回轉ニ起因スル偏向殆トナク又空中ニ於テ身心ヲ勞スルコト少シ着陸モ亦他機ニ比シ容易ニシテ着陸滑走中方向ヲ偏向スルカ如キコト殆ト稀ナリ
 2. 空中ニ於ケル安定頗ル良好ニシテ殊更ニ之ヲ錐操状態トナサントスルモ直ニ安定ノ姿勢ニ復歸ス

3. 上下左右翼ハ全ク同形ニシテ互ニ交換使用シ得ヘク支柱及之ニ附属スル金具モ亦取付方向ノ變更ニヨリ彼此流用シ得
 4. 座席ト踏桿トノ距離ハ操縦者ノ体格ニ應シ伸縮シ得

5. 從來初步練習機トシテハ甲式一型練習機ヲ使用シ来リタルモ初步者ニハ鋭敏ニ過キ殊ニ空中ニ於ケル教育困難ナルヲ以テ習得ニ比較的多クノ時日ヲ要シ且離着陸時ニ於ケル方向維持

ノ操作困難ナル爲器材ヲ損耗スルコト多ク危険モ亦比較的多
シ現ニ佛國ニ於テモ其影ヲ認メサル狀況ニアリ
三本機体及發動機ハ本邦民間工場ニ於テ既ニ製作權ヲ獲得シ發
動機ノ製作ハ完全ニ成功シ機体モ近ク製作ニ着手スルノ狀況
ニアルヲ以テ將來ニ於ケル補充等容易ナリ
以上ノ理由ニヨリ本機ハ初步練習機トシテ適當ナルモノト認メ
選定スル所以ナリ